

スポーツのまち 教養のまち

第1回内柴正人旗少年少女柔道大会



内柴選手、鈴木選手、小野選手を子どもたちが大歓声で迎えました



熱のこもった指導をする内柴選手



りりしい表情の参加者



白熱した試合が見られました

目指せ！未来のメダリスト

10月25日、ヴィーブルで第1回内柴正人旗少年少女柔道大会が行なわれました。小・中学生を対象に146チーム・約720人が参加し、内柴選手や市長たちが見守る中、技を競い合いました。

まだあどけない小学生たちの真剣勝負や、大人顔負けの迫力ある中学生の試合に、周囲からは盛んに応援の声が飛び交っていました。

また、内柴選手、鈴木桂治選手、小野卓志選手による柔道教室も開催され、会場は大変な熱気に包まれました。3選手はそれぞれの得意技を披露。丁寧な解説と指導が行なわれました。日本を代表する有力選手たちの華麗な技の実演に、子どもたちは身を乗り出して見つめていました。

合志市市民大学 開講



興味深げに話を聞く受講者

教養と知識の習得

10月23日、ヴィーブルで合志市市民大学の開講式が行なわれました。式には82人の受講者が出席。若者から高齢者まで、年齢や性別を問わず、幅広い層の参加がありました。

大住市長は「市民に教養と知識を高めてもらいたい」と受講者を歓迎するあいさつを述べました。

式のあとは、さっそく第1回目の講座がスタート。この日は「ストレスから私を守る」をテーマに、崇城大学准教授の小原守男さんの講座が行なわれました。大学で学生のカウンセリングも行なっているという小原さんは、日常生活の身近な話題を取り上げて話されました。ユーモアを交えた分かりやすい内容に、受講者は熱心に耳を傾けていました。



あいさつする大住市長



分かりやすく話す小原准教授

市では、3月までの平日の夜に毎月1回、それぞれの分野の専門家を講師に招いて講座を開催する予定です。興味のある講座のみの受講もできます。12月の開催について、詳しくは18ページをご覧ください。

さまざまな危機に備えて 総合防災訓練 健康危機管理訓練

避難訓練

本市は大きな川や山がなく、比較的災害が少ない地域といえます。しかし、近年多い梅雨時期の突発的な集中豪雨や台風による風水害は、本市でも発生しないとも限らず、地震がいつ起こるかは予測できません。

総合防災訓練では、市民の防災意識の向上を目指し、災害発生時の対応に関する訓練を毎年行なっています。今年は須屋・南須屋・南陽の3区を対象に、11月8日に須屋市民センターで実施しました。

同時にふれあい館では、県内で初めてとなる市職員による新型インフルエンザ流行時の発熱外来訓練を行ないました。



発熱外来の実地訓練

家庭でもできる防災知識として、市職員が実演したのは、簡易担架や簡易ローソクの作り方です。災害時に家庭にある身近な道具で防災グッズが作れることを説明しました。

また、体育館では救急法訓練が行なわれ、応急手当や心肺蘇生法など熱心に体験する市民の姿が見られました。屋近くなると、婦人防火クラブと地元住民の参加で行なわれた炊き出し訓練で、おにぎりや豚汁がふるまわれ、参加者は災害時を想定しながら、温かい食事を味わいました。

健康危機管理訓練

ふれあい館では、市内で鳥由来などの重症化率の高い新型インフルエンザがまん延し、市民に健康危機が生じた場合に、被害を最小限にとどめることを目的として、発熱外来運営の実地訓練を実施しました。

市立病院がない本市では、公共の建物を利用して発熱外来を開設するため、ふれあい館で診療所としての機能が発揮できるよう待合室や診察室の運営を職員が体験しました。

また、さまざまな事例を想定し、患者が幼児の場合や重い症状が見られる場合など、状況に応じた対応を訓練しました。患者役を演じた職員からは「嘔吐物はどうしますか？」など、臨場感のある質問が出ていました。



はしご車の搭乗体験



消防団の放水訓練



炊き出しの豚汁で一息



物干しざおと毛布を使った簡易担架の実演



参加した市民
後ろには消防団が整列

